

令和元年6月24日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2018

課題番号：25285196

研究課題名(和文)自殺への許容性についての心理学的検討と予防的介入

研究課題名(英文) Psychological study on tolerance to suicide and prevention

研究代表者

川野 健治 (Kawano, Kenji)

立命館大学・総合心理学部・教授

研究者番号：20288046

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の第一の成果は、自殺への容認的態度のタイプを明らかにしたことである。二つ目は、自殺への容認的態度を測定する方法を提案したことである。たとえば、日本語版SOSS尺度を作成した。三番目は、自殺への態度に関連する要因についてである。自殺への容認的態度はメンタルヘルスや自殺で遭われた経験によって影響され、自殺予防活動への否定的な影響力をもっている。最後に、自殺へ態度の個人差を考慮した自殺予防教育プログラムを開発し効果を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義としては、日本における自殺への容認的な態度について、その文化を考慮しながら構造や影響を実証的に検討した点がある。一方実践的な意味としては、自殺対策において自殺への容認的態度の個人差を考慮する必要があることを明らかにした。また、自殺予防教育プログラムGRIPを書籍化し、プログラムを簡単に入手し利用できるようにした。

研究成果の概要(英文)：The first outcome of this study is to have clarified some types of tolerance attitude to suicide in Japan. The second one is to have developed multiple tools for suicidal tolerance attitude. For example, the Japanese version of the Stigma of Suicide scale was made and added new items. The third outcome is about relevant factors of suicidal attitude. Suicidal tolerance attitude is affected by mental health and experience of suicide incident of a familiar person. And it has a negative effect on the attitude to suicide prevention. At last, the suicide prevention education program which is cared for personal differences of attitude to suicide was developed and evaluated the effects.

研究分野：心理学

キーワード：自殺 許容性 文化 自殺予防 学校

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本には自殺に許容的な文化があり、それが自殺率の高さに結びついていると指摘されることがある。しかし意識調査によると、日本人はむしろ自殺に対して非許容的であり、スウェーデンなど北欧諸国のほうが自殺に対してより許容的で、かつ自殺率は低い。ここから、自殺への許容は多面的な構造ではないかと推測される。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本社会・文化的特徴を含む自殺への許容性の内容と構造を心理学の視点から明らかにすることである。それらは、日本の自殺についての universal prevention (以後、全体的予防活動)、その中でも、今後重視されるであろう学校での自殺予防教育 (selective prevention:以後、選択的予防活動) が含むべき内容について、検討する手がかりになると期待される。

3. 研究の方法

自殺について美学的に表現された映画等を題材とし、日本人が自殺のどのような側面を肯定的に評価するのかを検討した。映画を用いた文化的対話法 (山本・姜, 2010) を参照し、日本人2名、および外国人留学生4名 (中国、韓国、ドイツ、イギリス) からなるグループにより、映画「ラストサムライ」視聴後、討論を行い、その内容を分析した。

日米比較調査：自殺の美化について、日米の自死遺族 (米国330、日本51) を対象に調査を行い、さらに、日本の一般サンプル (インターネット調査会社に登録する20代~70代の1800名) を対象とした調査を実施した。この研究の副次テーマとして「自殺に対するスティグマ尺度日本語版」を作成した。

自殺のメタファーについての研究：1800サンプルを対象にした自殺に関する態度等を評価する調査研究の感想欄について、テキストマイニングを行った。

自殺の許容性の文化心理学アプローチ：元禄より文化として日本で受け入れられてきた曾根崎心中を題材に脚本、作品などを分析し、自殺の許容の仕方の変遷である「創意」を検討した

自殺への潜在的態度：大学生・大学院生44名を対象としてIATならびに質問紙調査を行い、自殺に関する潜在的指標と顕在的指標を調査した。

自殺予防教育：ある基礎自治体の4つの中学校のうち、1校でプログラムを実施し、あと3校を対照群とした準実験の形式で、オリジナルの自殺予防教育GRIPの効果測定を行った。

4. 研究成果

自殺に対する肯定的な表現として勇氣・強さ、英雄的、美しい、格好良い、名誉、責任、忠誠、ロマンティックという表現が用いられた。他方で、「逃げるため、楽になるため」の「現代の自殺」については、「迷惑・無責任・逃げ」という否定的表現が用いられた。大義などの理由付け、感情移入しやすいストーリー、自分には起こらないといった認知の有無が、肯定的・否定的表現を用いる際に影響していると分析された。

自殺を美化する項目8項目のうち、3項目について日米間の違いが見られた。また、自死遺族の自殺へのスティグマはメンタルヘルスに影響していること、遺族会への参加がスティグマを緩和することなどが確認された。自殺の許容性がうつなどの心理変数と相関することを確認した。副次的な成果として海外の自殺のスティグマ評価尺度SOSSの日本語版を作成した。

3つのメタファー (目的地、事故、罪) と1つのメトニミー (望んだ等の動詞表現) を見出した。特に、自殺を目的地にたとえる複合メタファーは許容性につながると考えられた。

300年の間、心中事件を身近な文化として文化的産物の形式で位置づけるために、美化するだけではなく、正当化、神聖化、女性性、希薄化といった創意が時代ごとになされていた。

質問紙調査によって顕在的評価を行った場合は、大多数の調査対象者が自殺に対して「悪い」イメージを報告したが、IATによる潜在的評価においては自殺を「良い」と評価する対象者が一定数存在することが示された。また、潜在的評価においては、一般的な意味での「良い」という評価と、美学的な側面に焦点をあてた「良い」という評価とで異なる評価をする対象者が見られた。

自殺予防教育プログラムを完成し、ショートバージョンを作成した。ショートバージョンでも一定の効果があること、ただし領域が限定されているなど限界も確認された。研究の成果を書籍とし、また必要な人が教材をダウンロードできる環境を整えた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計9件)

Feigelman, W., Feigelman, B., Kawashima, D., Shiraga, K., & Kawano, K. 2016 Comparing facilitator priorities of suicide survivor support groups: A crosscultural comparison between Japanese and American groups. Omega: Journal of Death and Dying, <https://doi.org/10.1177/0030222816652799> 査読有り

川本静香, 川島大輔, 白神敬介, 川野健治 2018 自殺に対するスティグマ尺度日本語版作成の試み. パーソナリティ研究 27, 270-272. 査読有り

川野健治 2013 自殺を語る社会 - 物語論の視点から アスティオン 79, 151-164. 査読なし

川野健治 2015 学校における自殺予防教育の試みとその課題 精神科治療学 30, 511-516.

査読有り

- 川野健治 2015 これからの自殺対策の向かう先 こころの科学 181,2-7. 査読なし
- Kawano,K. 2015 Suicide Prevention Education in Schools in Japan. International Journal of Emergency Mental Health and Human Resilience17,661. 査読有り
- Kawashima, D., & Kawano, K. 2016 Meaning reconstruction process after suicide: Life-story of a Japanese woman who lost her son to suicide. Omega: Journal of Death and Dying, <https://doi.org/10.1177/0030222816652805> 査読有り
- 白神敬介, 川野健治, 勝又陽太郎, 川島大輔, 荘島幸子 2015 中学校における自殺予防教育プログラムの達成目標についての実証的検討 自殺予防と危機介入 35,23-32. 査読有り
- 白神敬介, 川島大輔, 川本静香, 川野健治 2018 自殺への潜在的態度 IAT を用いた病死・不慮の事故死との比較に基づく検討上越教育大学紀要 45 - 54. 査読なし

[学会発表](計 20 件)

- 加藤央也・川島大輔・川本静香・白神敬介・川野健治自殺を美化する態度と関連要因に関する探索的検討, 日本心理学会第 81 回大会, 2017, 久留米
- Kawamoto, S., Hatanaka, M., Shiraga, K., Harada, C., Kawano, K. Development of school based suicide prevention program (2): Development and evaluation of short form of GRIP program, International congress of psychology,2016,7.27, Tokyo.
- Kawamoto, S., Shiraga, K., Kawashima, D., & Kawano, K. Development of the Japanese Version of the Stigma of Suicide Scale. The 29th World Congress of the International Association for Suicide Prevention. 2017,Kuchin.
- 川野健治・荘島幸子・川島大輔・白神敬介 2014 Cognitive framework for suicide - From the point of view of metaphor IASP Asia Pacific region,2014,6.10, in Punaauia Tahiti
- 川野健治 2014 学校における自殺予防教育プログラム(1) 第 78 回日本心理学会,2014.9.10, 京都
- Kawano,K. Kawamoto,S. Kawashima,D. Syojima,S. Shiraga,K.& Katsumata,Y. Development a Scale for Evaluation of Suicide Prevention Education, International summit on suicide research, 2015.11.05,NewYork
- Kawano,K. Protecting our youth from suicide, 7th Asia pasific regional cnference of International association of suicide prevention, 2016.5.20, Tokyo
- Kawano, K., Kawashima, D., Kawamoto, S., & Shiraga, K. Suicide beautification in Japan. The 29th World Congress of the International Association for Suicide Prevention. 2017,Kuchin.
- 川野健治 自殺を美化するディスコース 日本質的心理学会, 2017、沖縄
- 川野健治・川本静香 アンカーポイントとしての生徒のメンタルヘルス 小学校での自殺予防教育プログラム GRIP の実践, 日本心理学会第 81 回大会, 2017, 久留米
- 川野健治 自殺予防教育プログラム GRIP 日本自殺予防学会, 2018, 奈良.
- 川島大輔・森下雅子・川野健治 2013 自殺の美学的表現へのナラティブ分析- 映画『ラストサムライ』を用いた文化的対話 日本心理学会 2014,9.13, 京都
- Kawashima,D.,Kawano,K. The stigma of suicide among Japanese suicide bereaved: A preliminary report, International congress of psychology,2016,7.27, Tokyo.
- Kawashima, D., & Kawano, K. Meanings of loss among Japanese suicide bereaved: Content analysis of free-response narratives. The 29th World Congress of the International Association for Suicide Prevention. 2017,Kuchin.
- 川島大輔・藤原愛・古賀佳樹・川野健治 深刻な悩みをかかえたときに身近な人に求める接し方と関連要因についての探索的研究, 日本心理学会第 81 回大会, 2017, 久留米
- Koga, Y., Kawashima, D., & Kawano, K. Exploring factors related to suicide ideation among Japanese. The 29th World Congress of the International Association for Suicide Prevention. 2017,Kuchin.
- Kawamoto,S., Kawashima,D. Shiraga, K., Kheibari,A., Kawano,K. Social stigma among suicide survivors: report from cross-cultural comparison study. The 7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention. 2016.5.18, Tokyo.
- Shiraga, K., Kawamoto, S., Hatanaka, M., Harada, C., Kawano,K. Development of school based suicide prevention program (1) : Overview and constructs of the program in Japan, International congress of psychology,2016,7.27, Tokyo
- Hatanaka, M.,Shiraga, K., Kawamoto, S., Harada, C., Kawano,K. Development of school based suicide prevention program (3): Evaluation of the effectiveness of the GRIP program among junior high school students in Japan International congress of psychology,2016,7.27, Tokyo.
- Harada, C., Hatanaka, M.,Shiraga, K., Kawamoto, S., Kawano,K. Development of school based suicide prevention program (4): The effect of GRIP program in high-risk adolescents defined by behavioral inhibition and activation systems, International congress of

psychology,2016,7.27, Tokyo.

〔図書〕(計2件)

川野健治・勝又陽太郎編 2018 学校における自殺予防教育プログラム GRIP 新曜社
Kawashima, D., & Kawano, K. 2017 Japan-Research-Informed Support for Suicide Survivors
(Karl Andriessen, Karolina Krysinska, Onja T. Grad Ed. Postvention in Action- The
International Handbook of Suicide Bereavement Support, Hogrefe.)423

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

なし

取得状況(計 件)

なし

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：川島大輔

ローマ字氏名：Kawashima Daisuke

所属研究機関名：中京大学

部局名：心理学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：50455416

研究分担者氏名：白神敬介

ローマ字氏名：Shiraga Keisuke

所属研究機関名：上越教育大学

部局名：大学院学校教育研究科

職名：准教授

研究者番号(8桁)：20598635

研究分担者氏名：川本静香

ローマ字氏名：Kawamoto Shizuka

所属研究機関名：山梨大学

部局名：大学院総合研究部教育学域

職名：准教授

研究者番号(8桁)：90769853

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。